



あかね

Vol. 6

平成30年9月発行
独立行政法人国立病院機構
東近江総合医療センター
広報委員会

月経困難症とその治療について

産婦人科医長 花田 哲郎

様々な辛い症状が月経（生理）に伴って起こることを、専門的に「月経困難症」と呼びます。月経のある女性の4人にひとりには月経痛（腹痛・腰痛）や多量の出血に伴う貧血、吐き気、頭痛などの症状を抱えていると推定されています。

月経困難症は、症状の原因がはっきりしているタイプ（＝器質性）と明らかな原因が無いにも関わらず症状を呈するタイプ（＝非器質性）のふたつに分けられます。

①器質性月経困難症

子宮筋腫や子宮内膜症・子宮腺筋症などが原因となり、月経困難症状が引き起こされます。診断は問診と内診・エコー検査やMRIなどによる画像診断を用いて行います。

治療はまず、鎮痛剤投与や貧血改善のために鉄剤投与などを行いますが、原因となる多くの疾患は女性ホルモンの作用によって悪化するため、病状の進行を抑える目的で低用量のピルなどホルモンを調整する治療も一般的に行っています。これらの治療で症状がコントロールできない場合には、原因を取り除くために手術療法も考慮されます。当院では腹腔鏡手術も積極的に行っており、開腹手術に比べ術後の痛みが少なく早期の退院が可能です。

②非器質性月経困難症

中学生から高校生くらいの若い女性に多く、成長に従い徐々に改善することも多いですが、症状がひどい場合には学校へ登校することもできなくなることもあります。治療は器質性月経困難症に準じ、対症療法および低容量ピル投与などが有効です。漢方薬が非常によく効く場合もあります。

いずれも外来で診断・治療が可能です。ひどい貧血や痛みで緊急入院が必要となることもあります。

産婦人科の受診は少しハードルが高く感じると思われかもしれませんが、早期に発見し治療することで、普段の生活の質をぐっと改善できるかもしれません。

お出しするお薬も、上手に使いえば怖くはありません。

月経で辛い思いをしている方は、ぜひ一度産婦人科医にご相談ください。

